※学校関係者評価の欄にA+からD−の範囲で評価を記入してください。また、意見や改善提案があれば記入をお願いします。

平成25年度　兵庫県立尼崎西高等学校　学校関係者評価シート

平成26年2月28日

ア	日々の授業の充実	①授業研究の推進・・多様な生徒への授業方法を共有する　②生徒の意欲を高める方法の研究・・生徒指導と学習指導と進路指導 ③生徒指導・教務・進路・保健・教育情報各部とマトリクス連携
イ	生徒への励まし	①様々な場面で生徒の自己有用感・自尊心を高める。②①の方法を研究・推進する。生徒指導技術の伝達。 ③さまざまなレベルの生徒へ丁寧に対応する技術の研究と実践。④「今は何をするときか」「目的は何か」を生徒に問い続ける。
ウ	教職員の資質向上と「いきがいの創造」	①信頼から尊敬へ・・プロとしての仕事ぶり　②アサーティブな対応で職員室文化を創造する。 ③個業から協働へ
エ	研究課題	①アドバンスクラスの効果的な指導方法　②スポーツ類型の育成方法　③上記2点を含めた広報について
オ	育てたい生徒像	①世界のどこかを支える事のできる人に育てる。 ②自分で問をたて、自分で答えを見つけることができる力を育てる。 ③上達にあこがれ、技を磨こうとする生徒を育てる。 1年生：「守」 尼西の型にはめる。予習・授業・復習の学習の仕方を確立する。部活動の入部を進める。 2年生：「破」 挑戦。形を体得した上で学業や部活動・学校行事などやりたいことやなすべき事に全力で取り組む。 3年生：「離」 独り立ちさせる。進路に向けて自走させる。

自己評価基準	A：達成している（4点）　B：概ね達成している（3点）　C：あまり達成していない（2点）　D：達成していない（1点）

自己評価の平均値を右のランクで表しています。学校関係者評価も同じランクです。

A+ 4.00～3.76	B+ 3.25～3.01	C+ 2.50～2.26	D+ 1.75～1.51
A 3.75～3.51	B 3.00～2.76	C 2.25～2.01	D 1.50～1.26
A− 3.50～3.26	B− 2.75～2.51	C− 2.00～1.76	D− 1.25～1.00

領域	評価の観点	学校経営の方針	評価項目	実践目標と成果		NO	検討部・学年	A	B	C	D	得点	自己評価	学校関係者評価	意　見・改善提案
学校運営	開かれた学校づくり	エ	家庭や地域への情報発信	実践目標	オープンハイスクール、学校説明会、HP、学校ブログ等により、学校の情報を地域や家庭に提供する。	1	総務部	14	22	2	0	3.15	B＋	B	・平成27年度拡大学区に向けてオープンハイスクールの効果的な実施方法を検討する ・ホームページの更新頻度を上げる ・地域、学年を考慮しオープンハイスクールの回数を増やす
				成　果	オープンハイスクール、学校説明会はH27年度の学区拡大も視野に入れて実施できた。PTA広報部とも連携しながら情報発信できた。										
		ウ	学校評議員制度を活用した学校運営の推進	実践目標	学校評議員会から提言を教職員に明確にし、地域から信頼される取り組みを実践する。	2	主幹教諭	8	30	0	0	3.05	B＋	B+	・学校評議員の専門分野からの指導助言を受ける工夫をする ・第2回学校評議委員会は合同防災会議を兼ねて毎年実施する
				成　果	評議委員からの提言で地域と防災に関して連携できるよう11月に合同防災会議を開いた。自転車の安全指導を強化した。										
	生徒指導	オ	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	実践目標	・学年との連携を一層すすめ、情報の共有化を図り、基本的生活習慣や交通安全に関する取り組みを全職員で行う。	3	生徒指導部	2	29	7	0	2.73	B−	B	・挨拶が大きな声できる生徒に育ててほしい ・まず生徒の自覚が必要
				成　果	前年度よりも連携強化が進んだが、まだ改善の余地がある。										
		イ	生徒の内面理解を図る指導の工夫	実践目標	キャンパスカウンセラーによるカウンセリングの研修を行い、生徒との個人面談を実施するとともに家庭との連携を図る。	4	保健部	9	27	3	0	3.00	B	B	・カウンセリングの教員向け研修を実施する ・生徒の情報共有をすすめる
				成　果	カウンセリング研修会において学び、日頃の指導の役にたった。										
		イオ	生徒の自主・自立の精神を育む指導の工夫	実践目標	生徒一人一人が尼西生の自覚を持ち、責任ある行動をとれるように成長を促す。	5	生徒指導部	3	17	17	1	2.45	C＋	B−	・生徒会の地域のボランティア活動には感謝している ・責任ある行動をとる意味を生徒に理解させる ・自尊感情や責任感を養うためにもボランティア活動の取り組みを増やす。
				成　果	自覚を持ち、責任ある行動をとれる生徒とそうでない生徒との差が大きく、両極端な状況である。										
学校経営	進路指導	アイ	進路指導体制の充実	実践目標	各学年の進路担当者と定期的に部会を開催し、協働体制を確立し、学校全体として指導に当たる。	6	進路指導部	2	28	8	0	2.70	B−	B	・3か年見通した計画が必要である ・各学年で考えさせ積み上げるべき内容を明確にした進路ノートを作成し全教員で共有する。
				成　果	基本的に週一回進路部会を持ち、意見交換をして指導体制を整えた。										
		イオ	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	実践目標	進路ガイダンス、セミナー、インターンシップを実施し、職業観勤労観の育成、進路意識の向上に努める。	7	進路指導部	10	27	1	0	3.08	B＋	B	・キャリア教育について教員の研修を行い年間計画に基づいて実施する
				成　果	学年と協力し、各種セミナー、ガイダンス等を実施した。										
	教職員の資質向上	アウ	実践的指導力の向上	実践目標	1学期公開授業、2学期研究授業を行う。合わせて授業アンケートも実施し、指導力向上に努める。	8	学力向上委員会	11	25	2	0	3.08	B＋	B+	・研究授業にテーマを設定し研究協議をする ・多くの教員が参加できる研究授業を計画する
				成　果	5月最終週を公開授業週間とした。11月には研究授業を各教科1から2名行ってもらった。1学期末の特編期間中には授業アンケートを実施した。										
		ウ	計画性をもった研修の実施	実践目標	教育のプロとして望まれる研修を年間計画に基づいて実施する。	9	主幹教諭	9	26	3	0	3.00	B	B+	・教員が希望する校内研修の調査をし計画する ・臨床心理学の分野の研修を実施する ・生徒の事例研究を専門家を招いて実施する
				成　果	特別支援に関する研修、2回の防災研修、学力アップデイを計画し資質の向上を手掛けた。										
	危機管理体制の整備	ウ	実効のある防災マニュアルの策定	実践目標	危機管理マニュアルに基づき、定期的に対応訓練を行う。その際、点呼確認を確実にする。	10	総務部	17	21	0	0	3.28	A−	A	・不審者対応のシミュレーション訓練も実施する ・訓練だけではなく講話や語り部による体験談を取り入れる
				成　果	1学期末と3学期始めに各部、学年と連携し避難訓練を実施した。防災マニュアルの見直し、確認をおこなった。11月には全職員参加の防災研修会（シミュレーション訓練）を実施した										
		イ	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	実践目標	家庭・地域・関係機関との連携を密にするとともに、実情に応じた危機管理体制を推進する。	11	総務部	9	26	3	0	3.00	B	B+	・毎年、地域と連携した合同防災会議を開催する ・危機管理体制の担当者や主導部署を明確にする
				成　果	隣接する市立成文小学校との連携を柱に、学校評議員や市防災課のご意見、大学研究者の助言を得ながら、危機管理マニュアルの見直しを進めた										
学校運営	学　年	イオ	基本的生活習慣と基礎学力の定着を図る	実践目標	1年：高校生としての自覚を持たせ、基本的生活習慣および学習習慣を確立させる。 2年：規律ある生活態度を育てるとともに、自らを律することができる姿勢をつくることを目指す。 3年：自律的な生活設計を立てさせ、社会人として自立していく素地を築く。	12	各学年団	6	25	4	1	2.84	B	B+	・自分で選んだ学校で自ら一生懸命学んでいる態度が見える ・アルバイトを減らし家庭学習時間の確保する仕組みづくりをする ・拡大学年会議を学期に1回は実施し生徒情報を共有する
				成　果	1年：遅刻者に回数分の早朝登校を求める指導を徹底することで、改善させることができた。漢字・英単語の小テストを1年間継続することで家庭学習の習慣の定着を図った。 2年：マナー指導や遅刻指導、学年集会、HR指導、個別指導を通して規律ある生活態度と自ら律することができるように努めた。 3年：学校生活に目的意識をも持たせるため、遅刻指導を行うとともに、球技大会を通じて自主的に生活リズムをつけさせ、楽しむと同時に義務や責任を果たさせ、生活を自己管理する能力を育てることができた。										
		イオ	将来の進路につながる学習意欲の向上を図る	実践目標	1年：進路目標を早期に具体化し、その実現に向けて必要な学力をつけさせる。 2年：進路目標を具体的に設定させるとともに、各自の目標に向けて意欲的に取り組ませる。 3年：授業中心に学習する姿勢を大切にし、家庭学習もしっかりと行わせる。	13	各学年団	4	24	8	0	2.74	B−	B	・制服も変わり通学態度もしっかりとしていると感じます。この調子で伸びてほしい・ ・上位者の学力を向上させる仕組みづくりが必要 ・生徒に進路意識を向上させる先輩や専門家の講話を実施する
				成　果	1年：総合学習の時間を活用し、進路学習・ガイダンスなどを計画的に実施した。またスタディサポート・模擬試験などを継続的に受験させ、生徒が自らの実力を把握できるように努めた。 2年　:3年での選択科目を考える過程で、また2学期の2回の進路別のガイダンスに実施して、自身の進路を実現するためどうしたらいいか考えさせることができた。3学期にもまとめの進路ガイダンスを実施予定である。 3年：普段の授業を大切にすることが基本であることを強調し、進路指導部と連携を図りながら個別指導等を行ったことにより、希望する進路実現を図ることができた。										

※学校関係者評価の欄にA+からD−の範囲で評価を記入してください。また、意見や改善提案があれば記入をお願いします。

領域	評価の観点	学校経営の方	評価項目	実践目標と成果		NO	検討部・学年	A	B	C	D	得点	自己評価	学校関係者評価	意見・改善提案
学校運営	学　年	ア	生徒自ら進路について考え自己実現を目指す	実践目標	学年集会、HR、総合学習、学年進路行事等を通じて、啓発していく。併せて、オープンキャンパスやインターンシップなどの体験を通じて自ら進路について考える態度を養う。	14	進路指導部	5	27	5	0	2.85	B	B	・総合的な学習の時間を計画的に活用するなど、継続的な進路学習が望まれる
				成　果	体験的なプログラムを出来るだけ取り入れ、生徒が自ら進路を考えるように促した。										
		アイオ	適切な進路指導により進路保障に努める	実践目標	各学年の年間指導計画を策定し、適切な時期に適当な進路指導を実施する。	15	進路指導部	4	27	6	0	2.79	B	B	・国公立大学、難関私立大学を受験に挑戦する生徒への支援体制づくり
				成　果	4月に全体計画と学年計画を策定し、計画的に指導を実施した。										
	学校全体	ウ	校務分掌	実践目標	教育推進局（教務、進路指導、教育情報）、企画管理局（総務、生徒指導、保健）を新設し、各部の連携や協働体制を促進する。	16	管理職	9	22	6	0	2.92	B	B	・校務の縦割り体制を緩和し互いに協働できるシステムをつくる。 ・局会議の定例化
				成　果	縦割りで一つの部で手掛けにくかった業務を主幹教諭を中心に各部を調整することで協力し実施できるようにした。										
教育課題	自ら学び自ら考える力の育成	アエ	体験的・問題解決的な学習の展開	実践目標	インターンシップ・ふれあい育児体験・海洋実習等の体験的な学習や問題解決的な学習を推進する。	17	教務部	11	26	1	0	3.10	B＋	B	・体験学習の参加人数を増やす工夫が必要 ・体験学習を新聞などで紹介してもらう
				成　果	インターンシップ、ふれあい育児体験、海洋実習等を実施し、発表等行わせることで体験型の進路学習を実施した。										
	学力向上	アイエ	生徒の学力の把握と学力定着の工夫	実践目標	定期考査結果の分析並びにスタディサポート等の活用により、学力の把握に努める。週末課題等の工夫により家庭学習時間を増やす。	18	学力向上委員会	6	24	8	0	2.80	B	B	・拡大学区になっても低学力の生徒の指導も今までのように続けてほしい。 ・考えさせる授業など思考力を高める取り組み ・課題の提出率は上がってきているが学力の向上につながっているとは言い難い
				成　果	1学年の定期考査結果の分析並びにスタディサポート、模試の分析により学力の把握は出来たが、学習時間の増加の効果的な手段を未だ得ず。										
		ウ	教職員の協働体制の確立	実践目標	学力向上にむけて教務部、進路指導部、教育情報部の定期的に会議を開き戦略を立て実践する。	19	教育推進局	7	26	5	0	2.90	B	B	・局としての課題を明確にし、対応策を検討する
				成　果	月に2回程度推進局会議を開き、教育課程、授業力向上、進路全般、授業アンケートなどを検討し改善対策に取り組んだ。										
		アウ	教科指導の充実	実践目標	授業公開や授業研究の機会を増やし指導力の向上を図る。	20	教務部	9	27	2	0	3.03	B＋	B	・公開、研究授業にテーマを設定する
				成　果	公開授業・研究授業を実施し、協議等行い指導力の向上を図った。また、生徒による授業評価アンケートを行い、次学期の指導指針となる情報提供を行った。										
その他	安全教育	オ	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	実践目標	防災研修の実施、防災マニュアルの改訂により、生徒の命を守るという教職員の意識と技術を高める。	21	総務部	15	23	0	0	3.23	B＋	B+	・防災体制・教育の年間計画を充実させるために、防災学習、講演会、シミュレーションを設定する
				成　果	8月11月に防災研修を実施した。特に地震津波シミュレーション訓練を専門家を招いて実施し課題を発掘しマニュアルに生かした。1月に合同防災訓練を実施する。										
		オ	実践的な安全教育への取組	実践目標	運動部を中心に長期休業の前に、救急法の講習会を実施し、事故防止に努めさせる。	22	保健部	16	21	1	0	3.23	B＋	B	・災害や緊急時に生徒が応急処置ができるようにする
				成　果	尼崎西署の方々の指導で、120名の生徒が実技学習をおこなった。										
	人権教育	イオ	人権教育推進体制への取組	実践目標	人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と「共生社会」の実現に主体的に取り組む実践力を育成する。	23	人権委員会	5	27	6	0	2.83	B	B	・講演会を精選する ・講演会の目的を全教員と共有する ・3年間を見通した計画・テーマづくり
				成　果	人権HR・講演会・教科授業や部活動等で継続した活動が一定できている。しかし、「いじめ」的な問題行動も発生している。3学期に生徒指導部と連携した研修会を考えている。										
	情報教育	オ	情報モラルの育成	実践目標	知的財産や個人情報の保護などについて扱い、情報の収集や発信などに個人の適切な判断が必要であることを学ばせる。	24	教科「情報」	6	24	8	0	2.80	B	B	教員に対しても情報モラルの研修が必要
				成　果	「社会と情報」「情報C」の授業でラインの危険性の話なども取り入れながら情報発信、情報収集について指導した。										
	学校の個性化・多様化	ア	特色ある教育課程の編成	実践目標	26年度入学生の教育課程編成に向け、就職から国公立大学進学者まで対応できる進路指導の観点に立った特色ある教育課程を編成する。	25	教務部	8	23	7	0	2.88	B	B	・生徒の実態に合わせた特色あるカリキュラムは非常に魅力的で今後も広げて言って欲しい ・受験科目において演習科目を増やす必要がある ・33単位の見直しをする
				成　果	2年次における選択群の運用等決定していく中、全体的な学力を底上げする編成を行った。また、SC類型において、スポーツV・スポーツ科学等の運用を検討した。										
		イ	高大連携	実践目標	高大連携校との事業（大学見学や講演会等）を積極的に実施する。また、あたらな連携校を開拓する取り組みを行う。	26	進路指導部	12	23	3	0	3.08	B＋	B+	・関関同立産近甲龍などの大学の連携する
				成　果	新たに芦屋大学との連携を結び、スポーツ・コミュニケーション類型を中心とした生徒への啓発に協力していただいた。										
	保健・衛生教育	オ	健康に対する意識の向上	実践目標	健康生活に必要な知識を理解・体得させ、健康管理に心掛ける意欲を育成する。	27	保健部	7	27	4	0	2.93	B	B	・睡眠時間を確保する重要性を伝える ・医師などの専門家による性教育の講演を実施して欲しい
				成　果	保健授業、保健だよりにより、意識づけをさせることができた。										
	読書活動	オ	読書指導の充実	実践目標	活発な図書館利用の推進と読書活動の啓蒙　・生徒主体の委員会活動の推進する。	28	総務部	11	25	2	0	3.15	B＋	B+	・教科や総合などで図書館を利用する機会をつくる
				成　果	読書週間を設定したが、図書室に足を運んでも、本を借りる生徒は固定している。図書委員は、ほとんどの生徒が積極的に活動に取り組んでいた。										
特	**管理職は適正なリーダーシップを発揮したか（しているか）。**					29	管理職	20	13	3	0	3.29	A−	A−	・拡大学区になっても尼崎西高校のよさを続けてほしい